

# 平成31年度 横瀬小学校 学力向上プラン

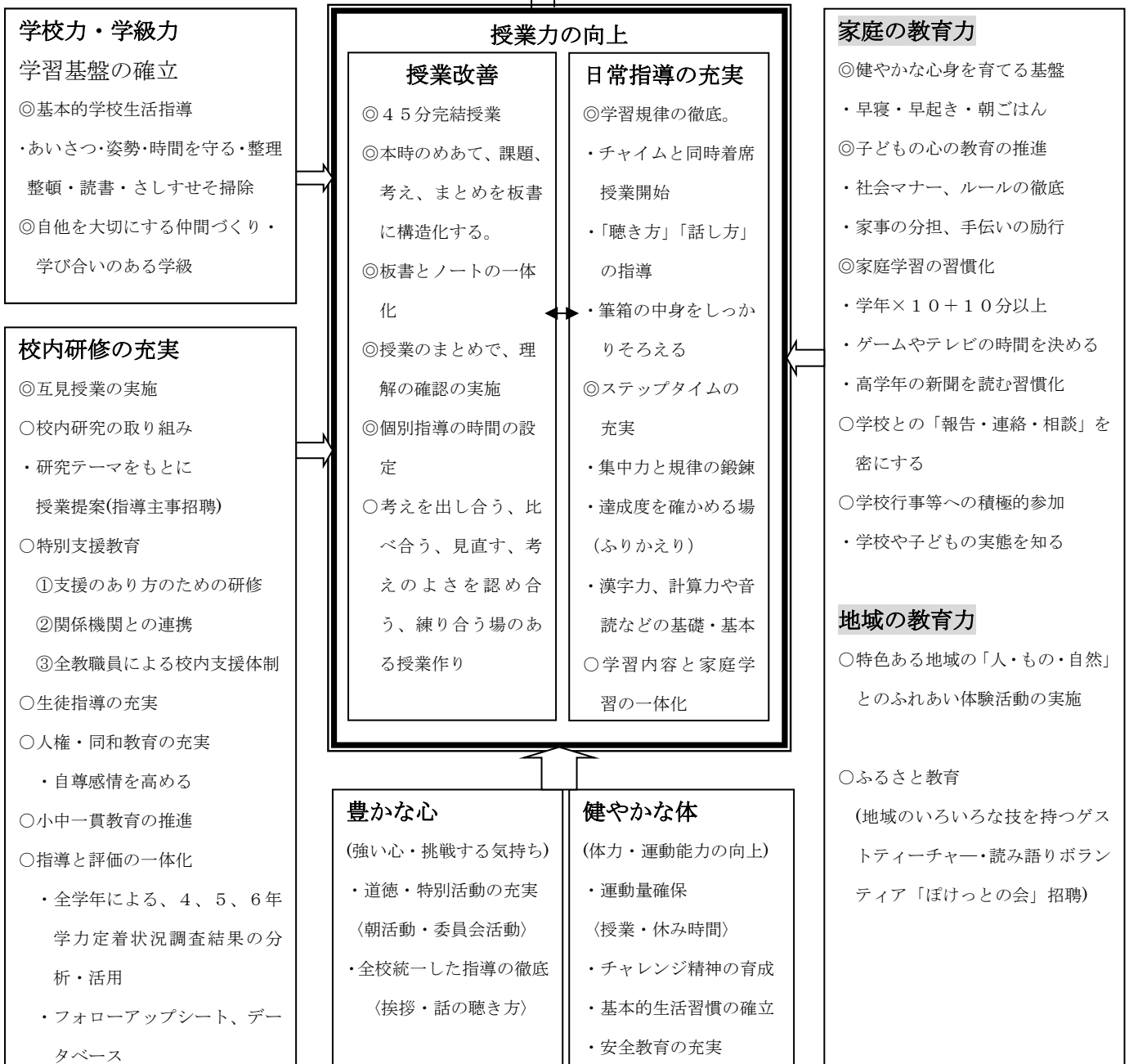
学校教育目標「豊かな人間性を持ち、自ら学び考え、未来へ向かってたくましく生きる子どもの育成」

◆本年度の学校経営の重点目標

- 授業力の向上を図り、確かな学力の定着と向上
- 豊かな人間力を育む教育の充実
- たくましく生きるための体力の育成

◆本年度育成する学力

- 基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着（該当学年の漢字を正確に読み・書く力、計算力、読み取る力）  
（単元確認テスト・学力調査の結果を、分析して指導に活かす～国語科：書く力 算数科：応用力の強化）
- 学習に対する興味・関心・意欲の向上
- 粘り強く問題解決に取り組む態度の育成
- 自ら考え、自分の言葉で表現する力の育成



# 平成31年度 学力向上プランの取り組み

## 1 本校における学力観

- 知識や技能に加え、思考力、判断力、表現力などまでを含むもので、学ぶ意欲を重視した、これからの子どもたちに求められる学力

## 2 学力の調査と分析（実態調査と授業への還元）

- 対象学年と教科

- ・低学年 国語、算数
- ・中高学年 国語、社会、算数、理科

- 調査方法

- ・継続して、客観的にとらえるために、各種学力調査、単元評価テストを活用する。
- ・担任、教科担当等が評価の観点に基づき、評価テストの結果を記録していく。
- ・共通のフォーマットでデータを蓄積していく。

- 分析

- ・学力向上部会でデータを分析し、実態や改善点等を全職員へ還元する。
- ・企画委員会の要請に応じて、分析結果を提供する。→校内研、学力向上会議、学校評議員会等

## 3 目標の設定

- 短期目標 各学年単元の評価テストにおいて単元到達目標（中高学年 80%・低学年 85%）と同等以上の平均正答率。
- 中期目標 4～5年生時の学力調査において県平均と同等以上の平均正答率。
- 長期目標 6年生時の全国学力調査において全国平均と同等以上の平均正答率。

## 4 目標達成に向けて

- 担任、教科担当

- ・評価テストデータを収集し、評価と授業を改善していく
- ・校内研究と連携して、提案授業、互見授業に全教員で取り組む
- ・朝のステップタイム、ロングステップ
- ・授業規律の徹底（小中連携会議で学習のきまりを統一）
- ・家庭学習→習慣化、取り組み方、内容、量、時間等→家庭との連携「学習の手引き」

- 学力向上部会（各学年1名が所属し、必要に応じて行う）

- ・データの分析、還元→各種資料の作成
- ・学年間の情報交換、目標の共有

## 5 取り組み

(1) 校内研究との連携 …授業内容、指導法の向上を目指す

- 提案授業による授業内容、指導法の工夫・改善（年2回）
- 互見授業による授業内容、指導法の工夫・改善

(2) 「朝の活動」時間の活用（8：15～8：35）

①ステップタイム …基礎・基本の定着を目指す

- ・「音読」 教科書、教材集を使って物語・詩・俳句・短歌等を音読する。
- ・「国語」 漢字ドリル、問題集、フォローアップシートを使って基本問題を。
- ・「算数」 計算ドリル、 $\alpha$ ドリル中心。その他フォローアップシート等

②読書タイム…読書習慣の定着を目指す

- ・図書館または学級文庫の図書を教室で読む・貸出（木曜日）

(3) ロングステップタイム（クラブ・委員会のない月曜日6校時）

- 4～6年生の基礎基本の定着時間に充てる。
- ・取り組み内容は、朝のステップタイムと同様。
- ・後述の「パピプペポたいむ」の時間としても活用。

(4) 指導法の工夫

- 1時間完結問題解決型学習
- 習熟度別・等質少人数指導（個に応じたきめ細かな指導）
- 複数教員による連携した指導の工夫
- ICTの活用

(5) 学習規律の徹底

- 小中連携会議で共通理解してる「学習のきまり」を本校でも教室に掲示し、継続して指導する。  
また、「よい姿勢」「鉛筆の持ち方」を随時活用し、学習への取り組み方を意識させる。
- 学習用具と家庭学習については家庭にも協力をよびかける。
  - ・4月学級懇談会で「筆箱の中身」「横瀬っ子学びのすがた（家庭学習の手引き）」を配布し、学習のめあてや流れについて協力をお願いした。

(6) 読書指導 …全ての学力の基礎として読書活動を推進する

①読書タイム（前述）

②図書館運営

- ・学年別に各学期、年間の目標を設定する。（年間 低 95冊 中 80冊 高 50冊）
- ・1日に2冊まで貸し出しを行う。

③パピプペポたいむ …話す・聞く力の向上、読書の幅を広げる

- ・地域ボランティアグループ「ぼけっとの会」の方々による読み語りを学年ごとに聞く。
- ・年間7～10時間（国語、総合的な学習の時間、ロングステップ、余剰時間を活用）

## 6 家庭との連携

### (1) 家庭学習の習慣化

○学校で学んだことを家庭で定着させ学習の習慣化を図るために、学級懇談会や通信等で家庭へ知らせ、理解と協力を仰ぐ。

#### ①家庭学習時間の目安

- ・学年×10分+10分程度

#### ②家庭学習の内容の目安

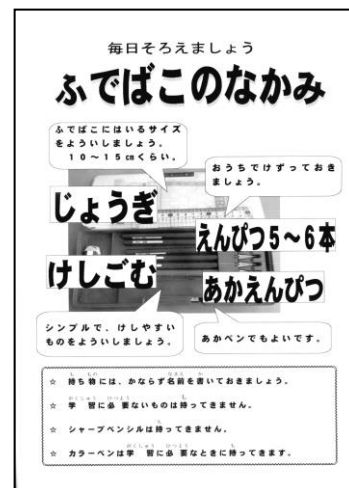
- ・漢字練習（ノート1ページまたはプリント）
- ・音読の練習
- ・「活用」問題に関するプリント
- ・計算練習（計算ドリル1ページまたはプリント）
- ・自学ノート（中学校での取り組みを参考にして）
- ・辞書を使った言葉の意味調べ



### (2) 学習に必要な用具をそろえる

○学習に集中して取り組めるよう、家庭に学習用具の準備と定期的な補充をよびかける。

- ① 筆箱の中身（筆記用具は鉛筆、赤鉛筆のみ）
- ② お道具箱の中身
- ③ 学習ノート
- ④ その他学習用具



### (3) 早寝・早起き・朝ごはん

### (4) あいさつ

### (5) 読書時間の確保